

3 当院における総胆管結石症に対する治療

— EST と腹腔鏡下手術の比較 —

竹石 利之・中村 茂樹・吉田 英春*
中山 義秀*

県立加茂病院外科
同 内科*

【目的】内視鏡的乳頭括約筋切開術 (EST) と腹腔鏡下切石術の治療成績を検討した。

【対象】EST 群 29 例 (平均 82.1 歳), 腹腔鏡下総胆管切石群 15 例 (平均 77.3 歳)。

【方法】両群で結石数・大きさ, 遺残結石の有無, 胆石合併頻度, 術後合併症を検討した。

【結果】EST 完全切石群 (22 例) と腹腔鏡下手術群 (15 例) の結石数 (個, $m \pm SD$) はそれぞれ 1.5 ± 1.1 , 2.1 ± 1.9 (NS), 大きさ (mm) は 11.8 ± 6.6 , 12.1 ± 5.3 (NS) であった。重症感染症はなかった。

【まとめ】総胆管結石症に対して, EST, 腹腔鏡下手術とも, 有効な治療である。治療法選択には, 結石所見と全身状態, 患者の希望を考慮した総合的判断が必要である。

4 嚢胞状形態を呈した膵内分泌腫瘍の 1 例

本山 展隆・秋山 修宏・本間 清明
小堺 郁夫・新井 太・船越 和博
加藤 俊幸・小越 和栄・土屋 嘉昭*
太田 玉紀**・権名 真***

県立がんセンター新潟病院内科
同 外科*
同 病理**
同 放射線科***

症例は, 51 才, 女性。主訴は, 心窩部痛。糖尿病として治療中, 食後に心窩部痛が出現し, 十二指腸潰瘍と膵疾患を疑われ当科を受診。上部消化管内視鏡検査で, 十二指腸球後部前壁に A2 stage の潰瘍を認めた。腹部 CT, MRI, EUS で, 膵尾部に $6 \times 4 \times 4$ cm の単房性嚢胞性病変を認め, 内部は均一な water density を呈し, 壁は一部肥厚しており造影効果を認め, 粘液性嚢胞腺癌と診断した。膵尾部切除術を施行, 嚢胞内腔には黄色ゼリー状

の粘液様のものが存在し, 病理組織学的に膵内分泌腫瘍と診断した。壊死や出血によらない嚢胞を伴った嚢胞型膵内分泌腫瘍は非常にまれであり, 報告した。

5 ステロイド中止にて病状の変化が認められた自己免疫性膵炎の 1 例

中村 厚夫・中村潤一郎・八木 一芳
関根 厚雄

県立吉田病院内科

62 歳男性。腹痛を主訴に紹介入院。腹部 CT で膵は全体に軽度腫大し, 検査成績より急性膵炎治療を開始した。症状は軽快したが膵腫大はわずかに増大した。経過中黄疸が出現し ERCP 施行。膵はび慢性狭細化像が認められた。下部胆管は閉塞しており ENBD チューブを留置した。膵管狭細型膵炎と診断し水溶性プレドニン 40mg を開始した。治療後下部胆管の閉塞と膵管の狭細化所見は改善傾向を示した。ステロイドは約 1 ヶ月で中止した。治療前抗核抗体 80 倍陽性, γ グロブリン, IgG は軽度高値のため自己免疫性膵炎と診断した。治療中止約 3 ヶ月で肝門部胆管が狭窄した。水溶性プレドニン 80mg を開始し病像は軽快し 10mg を維持している。このような胆管所見は興味深く維持療法の必要性を考えさせられる症例を報告した。

6 著明な好酸球増多を伴った原発性硬化性胆管炎の 1 例

瀧本 光弘・坂内 均・渡辺 俊明
済生会三条病院消化器科

55 歳の男性。健診にて肝機能異常を指摘され近医内科に通院。肝機能異常が持続し当院を紹介。諸検査にて PSC を疑い, 腹腔鏡下肝生検の目的に入院した。検査所見では好酸球が 56 % と増加しており, その他軽度の貧血と胆道系酵素の上昇を認めた。エコー・CT 所見では末梢の肝内胆管は左右ともに一部軽度拡張していたが, 総胆管の拡張はなかった。ERC 像では胆管は肝門部から三